

令和8年度 福島県人権教育推進事業
人権教育推進地域：国見町

国見町人権教育推進計画

～みんなで育む、自分と相手を大切にする心～

笑顔があふれ、
学ぶ楽しさを育む
(夢に向かって学ぶ学校)

すべての子どもが
「ここにいていい」
と感じられる学校

自ら問い、考え、行動し、
仲間と力を合わせる姿

地域が先生、まちが教室
(誰もが孤立せず支え合える環境)

人権教育の心臓部（コアテーマ）

～自分の大切さとともに他の人の大切さを認める子どもの育成～

国見小学校

一人一人を大切にし、
高い人権意識をもった
子どもを育成

県北中学校

豊かな人権意識をもち、
自ら考え、実践する生徒

自分の大切さを
認める

他の人の
大切さを認める

コミュニティスクール（CS）と連携した学校づくり

「教える授業」から「根付く文化」への転換

これまで

主体



先生が教える

場面



単発の特別な授業

環境



学校の中だけで完結

これから

主体



子どもたちが自ら気づき、行動する

場面



教育活動全体・日常の学校生活

環境



保護者・コミュニティスクールと共に育む

人権教育は特別なイベントではなく、日常の「当たり前の風景（文化）」になります。

文化を創る4つの主役（目指す姿）



【子ども】自ら気づき、行動する「成長のサイクル」

この日常的な蓄積が、人権が尊重される「学校・学級の文化」となります。



【教職員】文化が育つ「土壌」を耕す日々の習慣



「プラス5分間研修」の実施（例：職員会議の最後の5分を人権について考える時間にする）



掲示物の点検（学校内・学級内の掲示物を人権の視点から常に見直す）



日常の学校生活の重視（単発の授業で終わらせず、教育活動全体で人権を意識する）



意識調査の活用（6月と11月の調査で変容を丁寧に確認する）

【保護者・地域】温かさを見守り、広げる役割



熟議：CS 委員による熟議
(人権教育の課題を共に考え、学校へ提案する)



伝える：家庭での声かけ
(保護者が子どもへ、自分と他者の大切さを直接伝える)



発信：地域への波及
(PTA、各団体へ取組状況や「家庭ですべきこと」を発信する)

子どもたちを温かく包み込む推進体制

支援する行政

(国見町人権教育推進委員会、福島県)

見守り、協働する地域
(国見学園 CS、
地域学校協働本部、
PTA、各種団体)

子どもたち・各学校園

(藤田保育所、くにみ幼稚園、国見小学校、県北中学校)

対話と振り返りのリズム（年間計画）



※国見町人権教育推進委員会は
校長会議後に5～10分程度
情報交換を行う

変化を実感し、次へ繋げるために（調査・指標）



対象：教職員・児童生徒（6月と11月）

目的：「変容の確認」

数値で評価するのではなく、日々の積み重ねがどう意識を変えたか（成長）を確認する。



対象：保護者アンケート（11月）

目的：「実態調査」

家庭での対話や意識がどのように広がっているかを把握する。

私たちのアクション：園内・校内だけで終わらせない

【広める】

CS だより、HP、広報誌等で地域の皆様へ広く届ける。

【共有する】

学校・園だより、学年だより等で、日々の人権教育とCSの取組を発信する。

【繋ぐ】

PTA 代表のCS委員が、各学校の素晴らしい取組をすべての保護者へ拡散する架け橋となる。

一人ひとりの小さな発信が、
国見町全体の人権を尊ぶ「文化」を創り上げます。

